

年輪年代学用木材標本リスト

年代学研究室では、2015年度、年輪年代学用木材標本の整理を重点的におこない、現生木材標本についてのリストを作成して「埋蔵文化財ニュース162号」として出版しました。年輪年代学では、年輪が形成された年代を誤差なくあきらかにすることができますが、そのためには年輪の形成された年が明確な現生木から遡った年輪変動のデータを蓄積する必要があります。そのため奈良文化財研究所では、文化財ではなく自然史標本の範疇に入るともいえる年輪年代学用の各種木材標本を多数、収集してきました。この標本群は、我が国において年輪年代学の応用が成された根拠を示す証拠としての役割を担い、再現性を保証する重要なものであると同時に、昨今の森林事情を考えると現在では入手困難なものも多いため、これらを収蔵し、リストを公開する意義はとて大きいものだと考えています。

今回報告したのは、2016年3月までに整理した現生木材標本870点ですが、今後も標本数・内容とも充実させていく予定です。本標本は、年輪年代学を目的として収集された特徴的なもので、高樹齢の樹木の樹幹を輪切りした円盤状の形状をしています。このような木材標本がまとまって収蔵されている例は少なく、森林科学や自然史学等多方面での活用も期待できる貴重な標本群であるといえます。また、円盤状の樹幹の輪切りは、一般に年輪をイメージしやすいことから展示品として活用されることも多く、この夏には大阪市立自然史博物館の特別展「氷河時代—化石でたどる日本の気候変動—」でも本標本群からの展示が予定されています。ぜひ、この機会に、ご覧いただければと思います。

(埋蔵文化財センター 星野 安治)



大型木材標本の収蔵状況